

# 令和4年度 全国学力・学習状況調査 結果のお知らせ

福津市立福間中学校

## ■ はじめに

令和4年4月19日、3年生を対象に全国学力・学習状況調査が以下のように実施されました。

学力調査	国語 数学 理科
学習状況調査	学習・生活状況に関する質問紙(アンケート)

この調査は、子供たちの学力の傾向や学習状況の実態を的確に把握し、今後の学習や生活習慣の改善に資するために、文部科学省が毎年行っているものです。全国学力調査の結果は、学力のすべてではなく、特定の一部を表したものであるとされています。

先日、その調査結果が届きましたので、福津市教育委員会の公表方針に沿って、本校3年生の学力の傾向(福間中・県・全国の平均正答率の比較及び今後の授業改善の方策)、学習・生活状況(福間中・県・全国の回答結果の比較及び考察)についてお知らせいたします。

## 1 学力の傾向

### (1) 福間中・県・全国の平均正答率の比較

学力調査における福間中・県・全国の平均正答率(%)を各教科に分けて比較すると、次のようになっています。

国語・理科については、全国平均とほぼ同じです。

数学については、全国平均よりやや上回っています。

### (2) 本校の課題と今後の授業改善

各教科の調査結果を詳しく分析することによって明らかになった本校の課題と、その課題の解決に向けた授業改善の方策を次のように考えます。

#### ①国語 (R4年度の方策)

国語においては、次のような課題がみられました。

- 書くことについて苦手意識が強い。
- 漢字や語彙、行書の特徴などの言語文化の項目が弱い。

そこで課題解決に向けて次のような学習指導を行っていきます。

- ・語彙力を身につけさせるために、毎時間言葉(故事成語、諺、四字熟語、慣用句)を小テストやゲーム形式で取り入れ、様々な言葉に触れる機会を増やします。
- ・日頃の授業や定期テストで作文を取り入れる。自分の考えを整理して各中で、新たに身に着けた言葉や漢字を積極的に使うよう指導します。

## ②数学 (R4 年度の方策)

数学においては、次のような課題がみられました。

- 資料から傾向を読み取り、表現することができていない。
- 筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができていない。
- 多数回の試行によって得られる確率の意味を理解できていない。

そこで課題解決に向けて次のような学習指導を行っていきます。

- ・資料から傾向を読み取ることができるよう代表値や箱ひげ図の基礎的な知識・技能を身につけ、考察し表現する機会を増やします。
- ・型にはまった証明問題だけでなく、自ら筋道を立てて数学的に表現できるように説明する機会を増やします。
- ・基礎から入試問題まで幅広く確率の問題を解く機会を増やします。

## ③理科

理科において、次のような課題が見られました。

- 作図（力のつりあい・合成）についての理解が不十分である。
- 実験結果から考察し、「なぜ、そうなったのか」の根拠を明確にして、考えることが苦手である。

そこで課題解決に向けて次のような学習指導を行っていきます。

- ・現象のしくみや意味を理解し、科学的に考えながら作図の授業を行います。
- ・班で行った実験結果をもとに考察し、自分の考えを伝える活動や正しい結果にならなかったときの「なぜ」を考える時間を設定します。
- ・文章を書く力は少しずつ身につけてきているので、今後も振り返りやレポート作成を継続していき、思考力・表現力の育成を行っていきます。

## 2 学習・生活状況

学習・生活状況調査のうち、本年度も福津市が特に重視している質問項目（①～④、⑦、⑧）の結果と改善策は次のとおりです。

①「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対して、肯定的な回答（「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」）をした生徒の割合は、全国と比較してほぼ同じです。

→コミュニティ・スクールの特性を最大限に発揮するためには、学校と地域住民等が「地域でどのような子供たちを育てるのか」、「何を実現していくのか」という目標やビジョンを共有し、学校と地域のベクトルを合わせ、パートナーとして相互に教育力を高め合う関係を築くことが重要です。コロナ禍も3年目となり、少しずつ行事等も以前と同様に実施できるようになってきた。しかし、これまでの体験不足や人と接する機会の減少により、自身について主体的にものごとを考える意識が少し薄らいでいるように感じます。教育活動の中で、将来の夢や目標について前向きに考えたり、話し合ったりする場を設けることで意識を高めることができると思います。また、行事では自分たちで工夫・改善し、成功させてきた実績もあります。学校、家庭、地域で連携を図りながら、子どもたちの頑張りを褒め、夢や目標を与えられるよう充実したものにしていきます。

②「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、全国と比較してほぼ同じです。

→これまで福間中学校が続けてきたボランティア活動等も再開しています。社会に開かれた教育課程を実現させるため、学級活動や学校行事を通して、互いを認め合う共感的な人間関係を育みながら、子どもたちの自尊感情を高めていきます。学習や行事などの教育活動

の中で、子どもたちが「わかった!」「できる!」という気持ちになれるような場面をつくるために、個々によりその姿勢をもち、子どもたちと関わっていきます。また、子どもたちの自己肯定感をさらに向上させるためには、学校と家庭が同じベクトルに向かって進んでいくことが必要です。学校はこれからも積極的に情報発信を行うとともに、情報収集にも努めます。10年後の福津市で生きる市民性を養うシティズンシップ教育を推進していきますのでパートナーとしてご協力ください。

③「学校の授業時間以外に月～金どれくらい勉強しますか(塾など含む)」という質問に対して、1時間以上と回答した生徒の割合は、全国と比較してほぼ同じです。

→家庭学習が1時間未満の生徒が3割を超えるため、家庭学習の習慣化についての指導を今後も継続して行います。通信や面談等を通して子どもたちの学習の状況について共通理解を図ると共に、家庭と連携した取組を充実させていきます。今後、ICT機器の持ち帰りを行い、機器の活用も含め家庭学習のあり方も検討して、進んで復習に取り組むことができる生徒の育成を目指します。家庭学習の習慣化は保護者の皆様との連携が何よりも大切です。困り感を共有し、一人一人に応じた対応をとっていきたいと考えていますので、ご協力をお願いします。

④「家で自分で計画を立てて勉強している」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、全国と比較してほぼ同じです。

→毎日の課題プリントや自学ノート(スタディ)、また、週末課題の取組を充実させます。また、課題に取り組めていない生徒に対して、昼休みや放課後等を利用して、学習の個別の支援を続けていきます。定期考査前には、質問教室の開催や自習のための教室開放など、自主的な学習習慣の確立を促していきます。各教科において予習・復習と連動した指導を工夫することで、自主的な学習習慣の確立を促していきます。計画的な学習を進めるためには、ご家族の協力がとても重要です。お子様と一緒に生活習慣の見直しを行ったり、将来の進路に関することを話題にしたりすることで、安心して学習する環境づくりにご協力ください。

⑤「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、全国と比較してほぼ同じです。

→学ぶ楽しさを実感できるようにタブレット等ICT機器の活用をさらに進め、個別最適な学び(個に応じた)の充実を図っていきます。また、一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出すような協働的な学びを進めていきます。さらに、生徒と教職員、生徒同士の対話を大切にし、信頼関係の構築に取り組んでいきます。学校行事が少しずつ以前と同様に実施できるようになってきたからこそ、以前よりも洗練された新しい行事のあり方などを地域・保護者、生徒、教職員で一緒に考え、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるようにしていきます。

⑥「話し合い活動を通じて考えを深めたり広げたりできていますか」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、全国と比較してやや上回っています。

→本校ではこれまでも教科や道徳、総合的な学習の時間のなかで、対話を大切にしながら交流活動を行ってきました。学期末に実施している授業評価アンケートにおいても「交流活動を設けている」の結果は肯定的で、友達の意見で自分の考えを深められたという感想がみられます。今後も引き続き、対話を通して自らの考えを深め、さらに自分の考えや思いを表現できる生徒の育成を目指すために授業改善を行います。特に、交流活動そのものが目的とならないよう、交流の目的を明確にしてペア学習や少人数班での交流活動の場を多く設定することを全職員で共有します。また、学校行事や生徒会活動でも一人一人の考えを共有し議論をする場の確保に努めていきます。現在、委員会活動ではタブレット等のICT機器を活用し、委員長がデータを作成したり、委員の意見を集約したりしています。このように話し合う活動がスムーズに行えるような工夫についても指導していきます。そして他者と協働し課題を解決することで、急激に変化する時代を生き抜く力を育みます。

⑦「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、全国と比較して下回っています。

→コロナ禍で地域の行事が縮小し、現三年生は松林清掃活動についても、一年時・二年時ともに延期となり、三年時6月に初めて参加できました。学校から発信している地域貢献活動は、二年時後半より徐々に再開されつつありますが、参加生徒は一部の生徒となっています。一人一台端末（タブレット）を用いて地域貢献活動の案内や募集をさらに周知したり、活動の様子を学校通信で伝えたりしていきます。

⑧「社会や地域をよくするために何をすべきか考えたことがありますか」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、全国と比較してほぼ同じです。

→三年時の2学期のCS行事「福間中発未来会議」を通して、地域の方と一緒に生徒自身と福津市民が幸せになるための方途を考えることができました。また、今後の社会科公民分野においても、地方自治の内容を扱っていく中で、社会への参画意識を醸成していきます。地域や社会の問題や出来事について、教員からも生徒たちに課題を提供したり、地域のために自分にできることを考える機会をつくったりしていきます。